

三嶋 栄幸議員

九大を生かした地域づくりについて

問 九大との連携協力協定を締結したが、何件ぐらいの取り組みが進行中なのか、また、主な連携活動はどのようなか。

答 平成22年度の予定事業を含めて、連携事業は97事業で、主な事業は、社会保障カードの実証実験、農業の共同研究を行う糸島農業産学官連携推進協議会の活動などである。

問 いとしまサイエンスキャラバンの今後の展開について伺う。

答 サイエンスキャラバンはリピーターも多く、市民のみならず九州大学を身近に感じていただいため、今後も継続して開催する。

問 市民向けの公開講座を九大に働きかけ、糸島市で開催する考えはあるのか。

答 市主催の講座とは別に、可能な限り九州大学の公開講座も糸島市で開催していただけるよう、九州大学と協議を行っていきたく考えている。

愛され親しまれる市民窓口について

問 二丈・志摩庁舎の総合窓口の1日当たりの利用状況と課題について伺う。

答 (二丈庁舎総合窓口課) 1日100人の利用があり、印鑑

証明などの交付が半数を占めている。課題は、支所業務の周知を行い、利用者増を図ること。

(志摩庁舎総合窓口課)

平成22年4月から11月までの8か月間において、1日平均116名の方々が利用されている。特に印鑑証明、住民票などの発行が多い。

次に、課題としては、市の広報やHPなどを活用し、支所で可能な業務をお知らせしながら利用者の増加を図ることである。

問 本庁舎の総合窓口化はどのような検討しているか。

答 本庁において、市民が一つの窓口で各手続きができる総合窓口化(ワンストップ窓口)は急務と考えており、実現に向け全庁的な検討を行う。

問 総合窓口化を推進する上で最大の課題は何か。

答 対象業務とその事務処理範囲の選択、フロアの改修および電算システムの改編などに要する多額の経費、組織機構の見直しと職員の意識改革などが課題と考える。

問 休日の市役所開庁について、どのように考えているか。

答 3月から4月にかけて行う休日開庁(試行)の検証やアンケート調査のご意見を集約し、今後の休日開庁に向けて発展的な検討を進めたいと考えている。

黒田 公二議員

「見守り支援事業」について

問 高齢者の見守り支援に対する基本的な考えを伺う。

答 やがて到来する超高齢社会には、公的な施策だけでは十分でなく、地域の福祉課題をいち早く発見し、その解決のため地域住民が相互に助け合い、支え合うこと、それを行政が支援する仕組みが必要。マニフェストにも掲げているように、日頃から高齢者を地域で見守り、孤独死、犯罪、災害などから高齢者を守る地域見守り支援ネットワークづくりは施策として必要不可欠であり、地域の協力をお願いしながら実施していきたい。

問 民間事業所との連携をどのように拡大していくのか。

答 民間事業所には現在も一部協力をお願いしており、今後さらに協力事業所を増やすなど、高齢者の異常の早期発見、早期対応につながる体制づくりに努めたい。

問 見守り支援を支える民生児童委員に対する行政の活動支援の状況について伺う。

答 民生児童委員が活動しやすいように委員名簿や活動内容を広報紙に掲載し、市民への周知を行っている。また、事務局を糸島市社会福祉協議会にお願いし、市と連携を取っている。

問 災害時要援護者名簿に未登録の要援護者への対策は今後どうするのか。

高齢者福祉について

問 地域包括支援センターの役割について伺う。

答 高齢者に関する総合相談・支援窓口として、高齢者の虐待防止などの権利擁護、予防給付の予防プランの作成、ケアマネ指導・支援、関係機関との連携、協働体制づくりなどを社会福祉士などの専門職員を配置して実施している。

問 日常生活自立支援事業の内容と利用件数について伺う。

答 認知症の高齢者などが地域で自立した生活が送れるように、福祉サービスの利用援助などを行うもので、市社会福祉協議会が実施。平成22年11月末現在で利用者数は19人である。

問 成年後見人制度の内容と利用件数について伺う。

答 判断能力が十分でない人が利益を被らないように家庭裁判所に申立てを行い、援助してくれる人をつけてもらう制度で、特に必要があると認めるときは、市町村長が後見開始の申し立てができる。

平成22年10月末現在で、市長申し立てによる審判決定者1人、市長申し立て準備中3人である。

問 高齢者の移動手段として、巡回バスを運行してほしいとの要望が多いがいかがか。

糸島市地域交通計画について

問 どのような趣旨、目的のもとに糸島市地域交通計画に取り組んでいるのか。

答 効率的で便利な公共交通網を構築するために策定する。行政、事業者、市民がそれぞれの役割を果たし、協力しながら一緒になって公共交通を維持・改善していく。



コミュニティバス(九大線)

問 自主運行車両の推進の実現に向けての問題点は何か、また、解決策はあるのか。

答 一番の課題は安全性の確保で、乗務員の定期的な技能講習が必要。運行ルートやダイヤ編成は、住民参画で協議する。市として財政的支援の検討も必要である。

生涯学習の基本施設としての図書館の位置付けと開館準備について

問 図書館は、生涯学習の拠点として

答 65歳以上の高齢者のバス路線の新設要望は32%であるが、アンケートの回答では現行のバス利用は8.6%である。まずは、乗車協力により現行路線を維持し、その上で交通不便地域の縮減に取り組む。

健康ふれあい施設 二丈温泉きららの湯の今後のあり方について

問 健康ふれあい施設「二丈温泉きららの湯」の開設の目的は何か。

答 市民の健康づくりおよび福祉の増進並びに都市住民との交流を図るために設置した施設である。

問 健康ふれあい施設として、どのような活用をしているのか。

答 いとしま健康大学の水中運動教室、水中運動サポーター教室および生活リハビリ体操教室などを行っている。

また、65歳以上の高齢者を対象として利用料の割引を実施し、施設の利用促進や高齢者の健康増進を図っている。

問 健康ふれあい施設としての今後のあり方を伺う。

答 健康づくりの拠点として整備された施設であるが、収益部門としての温泉機能および健康施設を兼ね備えている。現状分析と将来予測を見極めなければならぬが、現時点では変更などの考えはない。

波多江 一正議員

糸島市地域交通計画について

問 どのような趣旨、目的のもとに糸島市地域交通計画に取り組んでいるのか。

答 効率的で便利な公共交通網を構築するために策定する。行政、事業者、市民がそれぞれの役割を果たし、協力しながら一緒になって公共交通を維持・改善していく。



コミュニティバス(九大線)

問 自主運行車両の推進の実現に向けての問題点は何か、また、解決策はあるのか。

答 一番の課題は安全性の確保で、乗務員の定期的な技能講習が必要。運行ルートやダイヤ編成は、住民参画で協議する。市として財政的支援の検討も必要である。

生涯学習の基本施設としての図書館の位置付けと開館準備について

問 図書館は、生涯学習の拠点として